

## 次のステージへ

To the Next Stage



高野章弘\*

今年6月中に関東の梅雨が明けたあたりから、気候がおかしかった。気象庁からは、「異常気象、30年に1度以下の頻度で起こる現象を気象庁では捉えていて、そういう観点でいけば異常気象であったと言える」とのコメントが出されている。7月の平均気温は東日本で平年より2.8℃高く、1946年の統計開始以来、歴代1位とのこと。西日本でも平年より1.6℃高い統計結果だそうだ。さらに、埼玉県熊谷市では41.1℃の国内最高気温の記録を更新した。7月中だけで、全国にある108の観測点で過去最も高い気温を記録したとのことである。冷夏や暑夏といった、毎年の多少の振れ幅はあるものの、着実に地球温暖化が進んでいる印象を受ける。さらにこの異常気象は国内だけにとどまらない。アメリカやアフリカで50℃以上の気温を観測し、さらには北極圏で30℃以上の気温を観測されたとのこと。まさに、どうかしているというレベルの異常気象である。それに加えて、平成30年7月豪雨や東から西への異常な動きを示す台風12号である。ある新聞は、「西から昇ったおひさまが、東へ沈む。」という、あの懐かしい「天才バカボン」の主題歌を引合いに出して、その異常気象をコラムでコメントしていた。「天才バカボン」の世界が現実になってしまうほど、我々を取り囲む気象・気候は異常であり、もはや過去30年や統計開始以来のステージから、次のステージに進んでしまった感がある。

地球温暖化については諸説あることは認識しているが、こうも世界中が異常気象に見舞われると、我々人類の計画性の無い長年の経済活動の「つけ」を払う時が近づいてきたとの印象も受ける。

自動車業界では、ガソリンやディーゼルなど化石燃料を使用する自動車を、ハイブリッド自動車(HV)やプラグインハイブリッド自動車(PHV)さらに電気自動車(EV)へと切り替えていく動きが、各国で活発になりつつある。化石燃料を用いる内燃機関を持つ自動車が生み出されたのは、第二次産業革命と呼ばれるが、昨今の自動車業界の化石燃料から電気エネルギーへの活発な移行傾向を目にすると、産業革命の次のステージに我々は足を踏み入れているのかもしれない。

さて、話を我々の所に持ってきてみたい。我が学会は、地球温暖化対策で最も有効と考えられる「太陽エネルギー」を冠している。地球上のあらゆる活動の起源となるエネルギーは、全て太陽から到達したものであることは自明である。しかしながら、近年の人類の活発な経済活動には、この太陽エネルギーを有効かつクリーンな形で、大量に利用することはできていなかった。学会ホームページの表現を借りると、「本学会がすべての自然・再生可能エネルギー、省エネ技術等の持続可能な社会構築に関する事柄を対象としている」「太陽光発電、太陽熱や風力、地熱など、様々な再生可能エネルギーおよび省エネ、さらに建築分野などでの、技術的な取り組み」を通して、地球環境に少しでも改善を導入できるような活動をしていきたいものである。

さらに話を太陽光発電に絞ってみたい。近年フィーバーを巻き起こしていた、固定価格買取制度は、電力調達価格の毎年の低下により、その役目を終わりつつ有る。固定価格買取制度の波に乗って全国で大きく普及したメガソーラーも、国内の設置しやすい土地にはほとんど設置が完了してしまい、新たなサイト探しが問題になっている。極端な例になると、メガソーラーを設置するために、森林を伐採して設置場所を確保することなどによる、本末転倒な環境破壊問題も出てきてしまっている。

太陽光発電の次のステージは、「自家消費」と言われ始めている。当初は、大電力を使用する工場に設置して、契約電力量を低減することなどに端を発していると思われるが、最近、「RE100 (Renewable Energy 100%)」の動きが見え始めてきているようだ。RE100は、最近新聞でも見かけるようになってきたが、事業運営に必要な電力のすべてを再生可能エネルギーで賄うことを目標に掲げる企業が参加する国際的な取り組みのことである。この世界的な先進的CSR活動などを通して、持続可能な快適な地球環境を永続的に手に入れられることを望みつつ、その活動の一端に参画し続けたい。

\*F-WAVE 株式会社